

「内藤記念館再整備事業」に関する意見一覧及び本市の考え方

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方・対応
1	計画	全般	延岡の本物の歴史を伝えていける、趣のある博物館にしてほしい。	例えば平成26年に行った市民アンケートにおいて多く寄せられた「人に紹介できる魅力ある施設が欲しい」というご意見も踏まえて策定した、「延岡の歴史を学び継承し、未来を創造する拠点」というコンセプトの実現を目指し、幅広い世代にご利用いただけるよう努力してまいります。 また、国の重要文化財公開承認施設も目指しておりますので、これまでに展示できなかった国内外の文化財や美術品等の特別展等が開催できるよう検討してまいります。
2			素晴らしい内藤記念館ができる事を楽しみにしている。学芸員の方の活躍を祈ります。	
3			市外に行かずに貴重なものを観覧できる機会ができる事を嬉しく思う。質の高い催しを期待している。	
4			延岡を訪れる方にお勧めできる博物館になりそうで嬉しい。	
5			高齢者には憩いの場、若い世代には延岡を知り誇りに思ってもらえるような博物館になることを期待している。	
6			かつて、博物館の存在意義については、文化と経済は相いれないとされてきたが、近年、経済と文化を融合するミュージアム産業という考え方が示され、ミュージアムを使ったまちづくりが進められている。ミュージアム産業の視点に立ったまちづくりとして、施設整備や運営をすすめてほしい。	
7	工程	施設のコンセプトや市産材を使用したエントランス、市の歴史を伝える平常展示室の設置など、大まかな方向性は大変よい。	市産材も可能な限り活用しながら、施設整備のコンセプトである「延岡の歴史を学び継承し、未来を創造する拠点」を目指し、ご期待に沿える施設となるよう、努力してまいります。	
8		開館が遅れると聞き、とてもガッカリしている。	今年度、市産材を多く使うことや、ご高齢の方や障がいをお持ちの方にも安心してご来館いただくためのエレベーター設置などの設計の見直しに期間を要しましたが、可能な限り早期の開館を目指し、事業を進めてまいります。	
9	事業費	事業費	施設整備費・管理運営経費ともに高い。文化遺産の管理にそれなりの費用がかかるのは理解できるが、もう少しコストダウンできないのか。	施設規模を拡大し、重要文化財等の展示も可能な施設として、市民の皆様が身近にそのような文化財や美術品を鑑賞する機会を提供でき、また市外からの誘客による経済効果も期待できる施設を目指しておりますので、経費がかかることは、どうしても避けられませんが、今回の意見募集における金額は、あくまで現段階における試算となっております。今後、様々な検討を重ね、可能な限り削減を図ってまいります。
10			見直しの結果、当初より増えた費用の公表をしてほしい。	実施設計の見直しに伴う、設計費用が約1,200万円。見直しや建築単価の推移による工事費の増額が約3,300万円見込まれます。今後、さらに外構や屋外エレベーター等についても設計の見直しを行う予定です。
11			ふるさと納税で協力を募ることはできなかったのか。今後、募ることはないのか。	本市のふるさと納税の「延岡市応援メニュー」には、4.「城下町 延岡」「神話の里 延岡」の豊かな文化・歴史を大切にしたいまちづくり観光振興、という項目も設けております。内藤記念館の再整備はこの一環となり、現在、ご協力を募っているところです。
12	建設	建築意匠	「城郭風」という偽物・作り物は見透かされる。未来に誇れる、嘘のない博物館を建設してほしい。	「延岡の歴史を学び継承し、未来を創造する拠点」の実現を目指し、且つ城下町・延岡の歴史等を外観を通じて可能な限り伝えていく施設を目指して参りたいと考えております。和室棟や休憩所など外構につきましても、今後、設計を見直す中で、様々なご意見もお聴きしながら、よりよい方向となるよう検討してまいります。
13			この場所にお城があったわけではないので、お城風のイメージは合わない。イメージパースにあるような外観で作られる方がよい。今後、本館や和室棟の外観が変わることがあるのか。	
14			建物外観イメージはよい。周辺施設と調和した趣を有する、近代的で落ち着いた建築物であることを期待する。	
15			延岡市と同様の時代背景を有し、本流の近世城下町をベースとする主要都市の博物館・歴史資料館・美術館には、城館風の外観を有するものはないので、城館風建築物でなく、原案の外観でよい。	

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方・対応	
16		木材利用	木を切ってしまうのは、城山は価値がありませんが、内藤記念館には木材を使って欲しい。	<p>今回の実施設計の見直しで法的な制限や文化財保護の観点などを検討し、更にコストバランスを考慮した上で、最大限木材を使用する計画としています。今後の整備の中ではベンチなどについて、さらに延岡市産材の利用を検討してまいります。</p> <p>また、軒天に使用している木材については、外部への使用実績の多い保存処理を施した木材を採用することで、耐久性向上を図っています。使用箇所を直接雨が掛からない軒天に限定することで、木材が劣化しにくく建物の美観が長持ちする工夫をしています。</p> <p>なお、城山につきましては「城山公園城跡景観等有識者会議」で協議し、見学者と周辺住民の安全面を最優先とし、石垣等の遺構保全、景観に配慮し、計画的に伐採を進めております。</p>	
17			軒天に市産材を活用するのは良いが、外装材に木材を使用すると、劣化が早いと思う。耐久性の向上をどう考えているのか。		
18			内装については、延岡市産材や資材の活用をお願いしたい。		
19			木材を使用することは、大変素晴らしく良いこと絶賛する。但し、本館全体に占める割合が少なく残念である。		
20			床材は堅牢な材を使用する方がよい(傷がつかない)。使用する材は秋から冬に伐採されたものを利用すべき。		いただいたご意見は、施工時の材料選定の参考にさせていただきます。
21			外壁		窓ガラスの面積が多いが、ガラスクリーニングコストを削減する観点から、セルフクリーニング機能を備えたガラスの導入は検討したのか。
22	ガラスが多く使われていて、きれいな外観ですごくいい。				
23	建設	展望ロビー	窓際は高温になり、日焼けや可塑剤がでて変色する事例があるが、検討されているのでしょうか。	<p>窓ガラスには通常のガラスより日射や照り返しなどの熱の流入を遮断するLow-Eガラスを採用しており、室内に熱がこもりにくいため、温熱環境の安定を図る計画となっております。加えてLow-Eガラスは、通常のガラスよりも紫外線を通しにくく、熱も伝えないため、床材の劣化や変色等が起きにくい計画となっております。また、展望ロビーのガラス面は東・西・北の3方向で、深い庇を設け南からの強い直射が床材にあたる時間が少なくなるよう配慮した平面計画となっております。</p>	
24			展望ロビーからの眺めは、とても素晴らしいものになりそうで楽しみ。ただ、夏は部屋が暑くなりそうだが、大丈夫なのか。		
25	設備		税金で立派な建物を建てるのであれば、水飲み場が必要です。エンクロスには水飲み場がありません。	<p>エンクロスには1F南側に、1箇所冷水器を設置しておりますが、新たな施設でも冷水器の設置を検討し、且つ、わかりやすく表示することを検討いたします。</p> <p>車いすの団体客の来館も想定しておりますが、関係団体にご相談はしておりませんが、どうしても面積や収蔵品を漏水等から守る等の制約があり、1階に多目的トイレを設置することを考えております。ご理解いただきたいと思っております。</p> <p>全体の面積や収蔵庫や展示室を漏水などから守る等の制約の中、可能な限り女性用トイレの確保に努めたところですので、ご理解いただきたいと思っております。</p>	
26			身障者トイレが1階のみだが2階には必要ないのか。関係団体に諮ったのか。車いすの団体客が訪れることは予想されないか。		
27			トイレが男女同面積で設計されていて、男性用の便器数の方が多い。男女平等、人口の男女比を考えると、男女同数か女性の方を多く設置すべきではないか。		
28	屋外EV		城郭風のエレベーターホールは全体の雰囲気と合わない。景観を損ねるので、費用対効果を考えた上で設置してほしい。	<p>屋外エレベーターにつきましては、今後、ご高齢者や障がいをお持ちの方のご利用、また市外からの大型バスによるご高齢の方々の見学等も想定されますので、より利用しやすい施設となるよう設置を検討してまいります。</p> <p>設置場所や仕様等につきましては未設計の段階です。様々なご意見もごさいますが、城下町・延岡の歴史等を外観を通じて可能な限り伝えることも非常に重要なことと考えておりますので、今後、全体の景観のバランスに配慮しつつ、費用対効果等も考慮しながら検討してまいります。</p>	
29			工事費とメンテナンス費用を考えた時に、敷地の上に駐車場もあるので屋外エレベーターは本当に必要なのでしょうか。建物を遠くから見た時にエレベーターホールが目立ち過ぎる。城郭風は論外。		
30			エレベーターは高齢者には嬉しいが、今まで無くても不便を感じなかった。建設費・維持費を考えると未来への負担となるようで、必要ないのではないか。		
31			史実がない城郭風の建物や城郭風のエレベーターホールは必要ない。昨今の城郭ブームは史実に基づく歴史的価値のあるものに支えられている。城郭風や、それに模したものは街の品格を下げる。		

「内藤記念館再整備事業」に関する意見一覧及び本市の考え方

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方・対応	
32	建設	和室棟	史実に基づかない城郭風の建物は違和感がある。具体的には、和室棟は土蔵のような外観で見苦しい。本館が景観に溶け込むように設計されているのに、和室を目立たせるのは違和感がある。	和室棟の外観につきましては、城下町の風情を感じられる空間の創出の一環として提案したものです。様々なご意見もごさいますが、城下町・延岡の歴史等を外観を通じて可能な限り伝えることも非常に重要なことと考えておりますので、今後、よりよい方向となるよう検討してまいります。	
33			低く構えた和室の形状に、白壁はそぐわない。		
34			和室棟の白黒ツートンのイメージは庭に合わない。土壁にするなど周囲になじむ色使いの外観にはできないのでしょうか。		
35		外構	内藤記念館は高台にあり見晴らしが良い。今回の再整備で、庭からの眺めがさらに良くなりそうである。安全のため、敷地の周りにはフェンスやブロック塀を設けるのでしょうか。せっかくの雰囲気や眺めが邪魔されないものにして欲しい。可能なら現状のように何も無い方がよい。		庭からの眺望を確保するため、フェンスやブロック塀ではなく、低木の補植を行い、生垣により安全を確保した上で、現状に近い形で整備していく計画としています。また、外構設計の見直しの中で、敷地西側駐車場部分に白壁を設け城下町の風情を感じられるような空間の創出を計画しております。ご意見も踏まえながら、よりよい方向となるよう検討してまいります。
36		庭園	池を中心としてとても良い雰囲気がある。子どもの頃からの思い出がある場所なので、従来のイメージを壊さないように整備して欲しい。		庭園は既存の池や植栽を活かしつつ園路の整備を行うなど、従来のイメージを壊さないように、回遊性を向上させる計画としています。また、池の漏水対策のため防水処理を行い、最低限のろ過設備を再整備する計画としています。
37	駐車場	大型バスの乗入はできるのか。道路の幅はできるのか。	道路の幅等につきましては関係機関と協議を行ってまいりましたが、様々な制限があり現道のままでの整備となります。大型バスにつきましては、東側の駐車スペースが利用できるため、その付近での屋外エレベーターの設置を検討しています。なお、全長11m程度のバスは通行でき、駐車場に駐車可能となっております。		
38	展示	展示内容	体験展示室は、旧内藤記念館にもあったが、活用されていなかったのではないかと。必要ないのではないかと。体験展示室としては、プロジェクションマッピングが人気。体験展示室で、映像によりワクワクドキドキする国内や海外の世界遺産も紹介等したら、「未来を創造する拠点」となるのではないかと。	旧内藤記念館において、体験用として製作していた竪穴住居や昔の暮らしを実感していただける静思庵(古民家)は、すべての世代に人気の展示物であったことから、新たな施設においても、その充実を図らせていただきたいと思います。なお、プロジェクションマッピングにつきましては、機器を頻りに更新しなければならない等、多額の経費を必要とすることから、今回は導入を見送りましたが、エントランスホールでは、タッチパネル式の大型モニターを導入し、来館者を市内に誘う、文化情報の発信を行う予定としております。世界遺産等の紹介につきましては、メニューを検討する上で参考とさせていただきます。	
39			九州国立博物館に収蔵されている市内にあった歴史資料の展示は可能なのか。	重要文化財の公開承認施設を目指しておりますので、ご指摘の資料の展示は、所有者や所蔵機関との協議が必要となりますが、機能としては十分可能な施設となります。	
40			神話の里としてのPR不足なので、神話に関する展示はできるのか。	エントランスホールでは、タッチパネル式の大型モニターを導入し、市内に点在する日向神話ゆかりの地を紹介し、来館者を現地へ誘う予定としております。また、企画展示等を行う中で、どのような展示が可能か検討してまいります。	
41			市内にはたくさんの軍事品が残っているのではないかと。後世、永久に平和が継続するよう、戦史資料室を設けて欲しい。	平常展示室では、「第二次大戦と延岡」「延岡における空襲被害」という展示コーナーも設ける予定としておりますので、今後、ご指摘の戦争関連資料等の収集もより充実させ、平和教育の場となるよう努めてまいります。	
42			延岡市は、九州8位の規模を有する菅原神社古墳や延岡城、圧倒的な量を誇る内藤家文書など豊富な歴史遺産に恵まれており、先史時代の遺跡から近現代の工業遺産群まで全ての時代の指標を有する宮崎県内唯一の都市です。県内他市に見られぬ「歴史文化都市延岡」の特性を十分に発信できる充実した展示内容に期待します。特に『慶長日向国絵図』(臼杵市立図書館蔵)や『有馬家中延岡城下屋敷付絵図』(明治大学博物館蔵)をはじめとする近世の城下絵図、延岡城木図(福井県坂井市)等々のレプリカを収蔵・常設展示し、延岡市民のみならず、広く世間全体に発信してほしい。	ご指摘のとおり、本市に伝存する様々な歴史資料を活用し、「歴史文化都市延岡」として延岡の特性を活かした展示を行うよう検討してまいります。また「慶長期の日向国絵図」(臼杵市立図書館蔵)や「有馬家中延岡城下屋敷付絵図」(明治大学博物館蔵)など、いくつかの近世の城下絵図につきましては、展示製作において、原寸大のグラフィックを作成し、平常展示室において展示する考えでおります。	
43			市内に点在する名所旧跡のほか、主要施設が一目でわかるパノラマは設置されるのか。そのスペースは充分とられているのか。	エントランスホールにおいて、延岡市全域を見ることのできる大型航空写真を床面に貼り付け、本市を代表する史跡や文化財等の所在地がわかる展示を行いたいと考えております。	
44			館内に年表は掲げられると思うが、最上段に世界史、次に日本史、次に宮崎県史、最下段に延岡市史というように比較対照できるものにして欲しい。小中学生にもわかりやすい表記であって欲しい。	展示の詳細な内容については、ご意見も踏まえ、今後検討してまいります。併せて、小中学生にもわかりやすい表記となるよう努めてまいります。	

「内藤記念館再整備事業」に関する意見一覧及び本市の考え方

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方・対応
45	展示	企画展	積極的に現代の意欲的かつ挑戦的な作品の展示をこころがけていただきたいため、美術館としての機能の充実を図って欲しい。	企画展・特別展の内容等につきましては、他館が所蔵する美術作品の展示も展示事業として想定しておりますので、いただきましたご意見を踏まえ、展示内容等も検討させていただきます。
46			市民に呼びかけて、市民が所蔵している文化財等を集めた企画展を行ったらどうか。市内に眠る文化財の調査にもなる。	いただきましたご意見を踏まえ、その実施方法等も含め、検討させていただきます。
47			企画展示室を使って、市民ベースや市と市民の共同での企画展はできないのか。	新たな内藤記念館の企画展示室は、カルチャープラザに設けているアートギャラリーや延岡総合文化センターの展示室等とは異なり、重要文化財を公開することのできる空間となるよう整備を進めておりますが、ご意見を踏まえ、今後、検討してまいりたいと思います。また市民の交流スペース・活動の場としては、和室棟の活用も可能な計画となっております。
48			市民の作品展の開催は可能なのか。	
49	組織	幅広く企画展を計画してほしい。そのためにも学芸員を増員できないのか。	組織については、現在検討中ですが、ご指摘の学芸員の増員も含め、幅広い企画展が開催できるような組織体制や運営体制を検討し、より良い施設となるよう努めてまいります。	
50		館長に外部の方を招くのは可能か。実績のある美術家や美術関係者にお願いして、思い切った企画や運営を依頼することができればよい。当初の数年間だけでも挑戦してみたらどうか。		
51		美術関係を専門にした学芸員を採用してほしい。企画展示室を活用するためにも、専門の学芸員、できれば単なる研究職でなく、美術展の企画運営の実績のある人材が望ましい。ノウハウを残すために最初の数年でも契約できないか。		
52		展示、運営の充実には人的資源の充実が不可欠です。考古、歴史専門の学芸員の増員、美術館学芸員の確保が必要です。		
53	運営	市民参加	郷土史に関する市民の関心が高まっている。関係団体との協力体制の構築が必要ではないか。	基本構想・基本計画でも示していますように、新たな施設では、市民が中心となる活動の場の提供を交流事業の一つとして、またボランティアの育成等を教育普及事業の一つとして考えておりますので、いただいたご意見を踏まえ、関係団体等との協力体制も検討しながら、施設の魅力向上につながるよう努めてまいります。
54			市民との連携による調査、研究、運営体制の充実という側面も必要。民間の調査研究団体である延岡史談会としても全面的に協力連携していきたい。	
55			市民のほとんどの方が興味を惹かれるのは美術関係だと思う。芸術や文化に慣れ親しむ市民を育てるといった機能も併せ持つために、市民を対象にした美術関係のワークショップの開催に力を入れて欲しい。	
56			花見の時期や花物語等のイベント時に、庭園で野点などの催しをすることは可能なのでしょうか。	庭園については、和室棟と一体となった活用もできるよう整備を進める考えですので、ご意見を踏まえ、検討してまいります。
57			庭園を利用して、野点や歌会を開催することは可能か。	
58		調査研究	市民が所有し埋もれている文化財の発掘に力を入れ、目録等を整備することも大事ではないか。	これまで文化課として、市内の文化財の資料調査などを行ってまいりましたが、ご指摘を踏まえ、調査研究活動の一環としても取り組むよう、努めてまいります。
59		和室棟	多様な市民の文化活動・交流拠点となる和室棟を整備するとあったが、今一つ、その有用性がわかりかねる。茶道以外の利用例というのはどういったものを想定しているのか。	和室棟の活用方法等につきましては、畳以外の板張りの部屋もございます。様々な会議や研修の会場、郷土芸能等の練習や華道等の展示、子ども達の学びの場などの用途を想定しておりますが、今後、さらに詳細に検討してまいります。

「内藤記念館再整備事業」に関する意見一覧及び本市の考え方

No.	区分	分類	意見の概要	本市の考え方・対応
60		名称	新聞報道で館の名称を「延岡城内藤記念館」としたいとあったが、言葉として大変言いにくく、わかりにくい。「内藤記念館」という名称の方がわかりやすく親しみがある。	名称については、現在検討中ですが、いただいたご意見も踏まえながら、且つ城下町・延岡の歴史を伝えられるような名称にしたいと考えております。
61			新聞報道で館の名称を「延岡城内藤記念館」としたいとあったが、非常に読みにくく、発音しにくく、また施設の機能についても誤解を生みやすいと思う。延岡市歴史民俗博物館「内藤記念館」が、市外の方にわかりやすく、市民も親しみやすい。	
62			城山との一体性が感じられる名称変更に賛成です。	
63			施設名が「内藤記念館」と市外の方にわかりにくい。博物館であることがわかる名称を検討すべきではないか。	
64	その他	その他	内藤記念館と城山をつなぐ城下町風の遊歩道ができるとよい。	内藤記念館と城山を結ぶ遊歩道等の設置は、今後の課題となりますが、新たな施設では、展示の冒頭で「延岡城(城山)」を紹介することを検討しており、また本館の展望ロビーや庭園・和室棟から延岡城(城山)を望める設計とするなど、延岡城との一体的な空間づくりにつながるよう努めてまいります。
65			城山西側の小山の活用を考えるべき。	ご指摘の小山は、旧営林署の寮の跡地のことと思います。現在、市の所有地となっておりますが、その活用につきましては、今後、検討してまいります。
66			避難施設としての利用が考慮されているのか。例えば自家発電施設や備蓄庫など。	以前の内藤記念館は避難施設として位置づけられていましたが、今後については現在検討中です。なお、自家発電施設や備蓄庫は備えない考えで整備を進める予定ですが、今後の検討状況に応じて対応を考えてまいります。
67			設計の見直しが行われていると書かれていたが、資料からは設計の変更点を読み取りにくかった。	今回、市産材の利用や城下町の風情、屋外エレベーターの設置について必要な変更を行い、それらを付け加えた全体の姿で案を公表させていただいたところであり、それらが変更点であることをご理解いただければと思います。
68			和室棟の平面図が示されていないかった。	今回の意見公募については、本館の全体的なイメージと、建設費・運営費等に関して実施いたしました。今後、外構の設計等を見直す中で、和室棟についても後日、案の段階のものを公表したいと考えております。
69			延岡市史編さんのため、人材を配置し、市史編さん室を設置すべき。古代から現代までの延岡の歴史に関する資料の整理や、研究成果の体系化に着手すべき。	延岡の豊かな歴史を伝え、市民の皆様がふるさとに誇りを持つことは非常に重要であると考えており、古代から現代までにわたる市史編さんの必要性も感じているところであります。大きな財政負担やマンパワーが必要となるという課題もありますので、まずはどのような内容や範囲、手法などにより行うかなどについて検討したいと考えています。